

# 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○11月10日～

先週は今までの強い相場の動きに少し変化がありました。

ドル／円は155円のせとならずに反落する動きとなっています。

片山財務相が円安けん制発言を行なったことで円安の動きに歯止めがかかった形になりました。

また、先週は株価が高値から急落するような動きとなつたためリスクオン的な相場の雰囲気が少し変わりつつあります。

AIバブルが弾けるという話も出ているためAI・半導体関連の株が暴落するような動きが出れば流れが変わってきます。

今週さらにリスク回避の流れが強まると、為替相場も円高が進む可能性があります。

今の相場は政治に大きく振り回される動きが多く、経済面よりも政治的な動きに注意がいります。

高市トレード(円安・株高)の動きは11月に入って少し落ち着いた感じはありますが金融緩和・積極財政への期待から年末にかけて円安が進むかどうかがポイントになってきそうです。

逆に、高市政権に対して失望する声が出てくれば、今までの動きを修正する形となり、円高になる可能性もあります。

そして、米国の政府閉鎖が史上最長となっています。

閉鎖が長引けば経済面でのマイナスが大きくなり、リスク回避の動きが強まりそうです。

夏以降、リスク資産(株、仮想通貨など)が大きく上昇する動きが続いた反動が一気に出てくるかもしれません。

株と同じようにドル／円、クロス円とともに4月の底値から上昇トレンドが続いています。

4月に関税の問題で暴落し、その後も関税問題に振り回され、10月に米中貿易問題は一段落しましたが関税問題が出てくる3月以前と比べて何か大きくプラス材料が出ているわけではなく、冷静に考えると行き過ぎ相場のように見えます、

レアアースについては、米国だけでなく欧州も中国からの輸入に頼っているため手続きが複雑になり、遅延が続ければ製造業に影響が出てきます。

ほかにも英国が予算案など財政問題で政治的に難しい舵取りが続いており、ポンドも上値が重くなってくる可能性があります。

また、カナダは米国との関税問題で不利な状況となっており、トランプ大統領がカナダに対して厳しい対応を続ければカナダドルにとどめマイナスです。

11日は米国がバテランズ・デー(退役軍人の日)で祝日です。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

## 今週の相場はどうなる？

### <ドル／円>

先週は154.5円あたりで上値が重くなり、反落する動きとなりました。

日足、週足で見るとトレンドはまだ崩れてませんが週明けから安値更新の動きとなればトレンドが崩れてくるかもしれません。

下値は先週安値の152.8円を割り込んでくると151.5円あたりまで下落するリスクがあります。150円台後半で下げ止まれば再度155円を目指す可能性が出てきますが、150円割れとなると円高リスクが再燃しそうです。

上値は153.6円を超えてくれば154円台まで戻しそうです。

145.5円を超えると155円のせを目指しそうですが、円安けん制発言が出やすく注意がいります。

### <気になるクロス円>

クロス円は株価の動きと連動しやすいため先週は週明けの株価の下落で大きく下げたペアも多いですが週末にかけて戻してきました。

ただし、週足で見ると陰線となっているペアが多く、先週の安値を割り込む動きが出ると大きな調整となるリスクがあります。

株価が急落する動きが出ると一緒に下がりやすいため株価動向に注意しながら慎重に取引していきたいです。

カナダドルやNZドルは月足でもチャートの形が悪くなってきたため中長期的なトレンドも確認しながら取引したいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:○○／円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル？>

日本では9月貿易収支などがあります。

米国では10月消費者物価指数、前週分新規失業保険申請件数、10月月次財政収支、10月小売売上高、10月卸売物価指数などが発表されます。

欧州では、ドイツとユーロ圏で11月ZEW景況感調査、ドイツで10月消費者物価指数、ユーロ圏で9月鉱工業生産、7-9月期GDP(改定値)などがあります。

ほかには、英国で7-9月期GDP(速報値)、9月GDP、中国で10月小売売上高、10月鉱工業生産などがあります。